

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

KODAK
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19



改正文久
京羽津根
五

ル 4
1177
5



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1177
5

花洛桐津根卷又六目錄

書名部

此部より五丁まで
中巻全巻を記す
此部より五丁

紀傳部

五丁より
持月心

字注部

八丁より
奥巻まで

久世部

五丁より
四十四丁

相樂部

五丁より
四十七丁



綴末部

姓務らくる寺

乙訓部

山崎おちる寺

葛野部

久末寺
久末寺
細かみ律之院

寺院之部 愛宕郡

○比叡山延暦寺 古領の石

柞當山ハ桓武天皇の御教延暦

七年の景創日十三年供養一宗

止観住と名はく本寺ハ傳教大師

自他兼願の尊像法号ハ山王七社

中下とくへて廿一社十寺飯下

法号あり日本天台の根本法護

國家の石切 天子清本令の

山とのり罪山名ハ最澄江分法聖

の人あり俗姓ハ三浦氏延暦廿三

年入唐して道遠大師と名

前とお兼一昭覚阿闍梨

胎令の灌頂とうけて翌年の
朝を弘仁十三年六月甲寅
貞観八年傳教大師と謚を
是日日本大師号のくまの
八天台と面くうらまへ
かたきまきり

此山は本朝五岳の二つありて
五城の鬼門にあはれ八良峰とも
よ初八日枝をきくとほこ比叡と
改めり又天台山我五松良岳
鷲峯台嶺工の列号あり
或は此山を龍岩山と云ふれハ
駿河の富士山に似たり昔者
いりては雪ありはたけの

又土もさう
中堂院 傳教大師の御位
観音院 智徳大師の御位
楞嚴院 惠心傳教の御位
元黒谷 源室上人の御位
大寺院 慈徳和尚の御位
くまの此院のくまの墳墓有歎
聖人もあはれりて天台の
学問したるなり

山坊

東塔止観院と号す
南谷 北谷 十束谷 西谷
云劫寺谷 劫谷五谷六十五坊
西塔宝幢院と号す

小谷 東谷 南谷 北尾谷

南尾谷 弘合五谷二十九坊

横川楞嚴院と号す

鬼卒谷 梓芳谷 般若谷

戒ん谷 解脫谷 飯室谷

弘合五谷二十九坊合テ十五谷

百三十二坊 外ニ安樂律院

○林丘寺 修学寺村 浄宗領三百石

本寺より親者左像浄丈二尺余

開基照山元瑞淨尼公

後北尾院の皇女光子内親王

始排の宮と移と禪法小師依

とすといふ此地と用て禪刹と

寺一なる入と

○曼珠院 一寺あり村 浄宗領七百廿七石

浄宗旨天台慈覚大師より

相承して天慶年中北山より

たてたりし御門跡ハ是等法

親王と仰とて中古より寺と

禁裏の傍ふりてあり明暦二

年、良尚法親王今の地に移と

たりしハ修家智仁親王の御子

たり

○瑞巖山圓光寺 日上 寺領二百石

浄宗旨禪本寺千子親王坐像

淨土ニ尺余運度の修りて
尚寺初より、お寺是利の寺様よ
して慶長六年

東照神君の 台命とありて
伏見の指月に移したるなり
その後相國寺の内より、又
寛文年中此地より修り
中興の祖ハ三要和尚也法嗣と
耳峰能得師不受足利学校
第九世の修り

○寶幢寺

高野村

宗旨淨土西山派開基旭修上人
寛永年中草創より本尊阿彌

陀佛立像淨土三尺余相好も奇
みて寺の庭を由佛師お授多
ありて池もも也

○歸命山蓮華寺

同上
小の方あり

宗旨天台山門小属を初り八淨宗
より本尊釈迦佛坐像八九寸なり
寛文年中加刺老臣今枝民部
辺義再建して今の寺に改蓮華
寺の額ハ石川丈山隱士の筆也

○魚山大原寺勝林院

大原村
寺領六十七石

宗旨天台慈覺大師用基寂源
法師長和年中草創、中頃良忍

上人梵唄声明と修せしむるより
声明の本寺と称し又世ふ大系
流の声明と称し本寺阿耨陀
如來坐像せんとり康成の世
より世ふ澄極の強地と稱する
ことへむし山門の僧於率傍却
覺部と同山靜慮院偏教とこの
如來の前ふおひて空不空の論
後とせりあつるふ覺部不空
と論じれば本尊相好とせし
偏教空と経けば相好とあはし
なきなり是れ中道實相の澄
極より立ちたるなりとの由ふ
稱号とも又文治二年法然

上人と山門の座を稱し法然及び
諸宗の碩徳と一向專念の同旨
とせりを此時法然上人の依
論ふおひてハ本尊光明と云
ちたなり世ふ云大系同答と
はこれよりあつて諸師法然上
人の義ふ信し頭去り僧の約
者ともまこととせり今山門の
別院として推并官淨土移之
○魚山來迎院 同所
寺依字九石
宗名天台慈覺大師の同創
して鳥羽院の淨土天仁二年
良忍上人中興して教を弘む

修りしふ所ふ世の人妙通ると
秘と本より三所中央並師如未
坐像三人守り行基の他
た釈迦如来坐像三人余右
阿彌陀如来坐像同寸惠修地
より元の本より今のたぬの
二よりり業所ハ迫世安到り
秘又此地ハ嶽岳西塔の北谷
ありてびくハ坊舎一百有金宇
ありしと魚山の号ハ漢土の
天台山の西ハ大東奥山と云
秘ありり秘も天台山の支山
これハ唐土の例と云きて名づ
くるしと

○大原山寂光院

同上芥生の里
古領三十五

字名と云言浄土真宗 開祖ハ
法法大原と云言文治年中ハ
建礼門院開祖ト云ふハ
今亦いり尼寺と云るも
たハ源平盛衰記ハ平家
為修所不れせり本より地
菩薩立像ハ人石地を
淨化あり

○照高院

白川村
淨依千石

取後院と云言常布あり
開基ハ興意法親王之殿舎

傳ん城和の九と引福とれく
道見法親王修禱うきくわん
しとや

○慈照寺 浄土寺村
古跡二十四石余

字方深谷と名國はと因經寺
本寺新迦仏坐像丈六寸
中正後日復の化といはれ佛ハ
明鏡三帝子の位にありは後
一名浪園らもといふと是村
ハ代の將軍義政公文の三年
世務と清りて因經しんはし
列在うりは東山殿と号す
延徳二年正月七日の夢に

たすひて慈照信教去山を
法号し遺令すすつて此
寺とすしなすといふ

○石山系無等寺 一号法皇院
石山麻呂名
古跡二十石

字方深谷と名身は不屬を
延喜八年の事相傳再興せ
らる本寺阿彌陀如来坐像
ありん斗恵ん化

○香澄寺 本同上
古跡百二十石

浄土なる禪圓基ハ靈澄院
尼云妙法後妻然法親王の
御母云也淨代ハ比丘尼淨所

伊位城したる入本寺不動
の石彫立像一人余多徳大
作の化あり

○雲蓋芝山光雲寺

南河内表のあり
式部石

宇治の南河内表のあり本
寺の石彫如来坐像を一人余
斗用山大田國阿南河内表
英仲和為再興あり元橋阿
是と云ふあり東河内尾
の所歎けぬと建立し給あり
方丈ハ門庭の姫宮女三宮の
所殿と云はれぬなりと也
馮凶石の子水法ハ佛殿の後

ふあり南河内の寺觀あり

○雲蓋芝山光雲寺

南河内表のあり
式部石

法西四ヶの一本あり元祖
圓光大師の四柱ありて叡山
西院の聖名と云はれそ新羅
帝と稱し用基ハ中二世法親
源智上人の本寺に法住佛
坐像六人あり坐像の志心
佛は一生同彫刻せしけし像
多し一坐あり坐像坐して坐
平カハ坐像己の如坐と云ふ
坐像坐の本寺ハ新羅の坐
ありて坐像の像と安んじ

是は湯湯詔を巡るのまゝ
又二重の塔小文海昔昔を
安んずるとはる像ハ日本三文
殊の一神也 丹后切戸に像あり
和名安部
中山之靈像も亦安んずる
ところのけち廢壞して世に
うけもたると也又三神大原
加茂の神の神勅ありのこ
浄土安心の要文と書し
是と世に一枚詔文とあり
菊山中へ付賣りり毎年六月
にふる七拂のせの法を
ひらき

○妙惠山岩正寺 法系神馬の
南方

宇治の法系本願寺に屬す
南本本願院日院上人が
園白秀治の母後院院日
尼也又法云遺福の
建立したる山城國六
一也なり秋也本寺
全洞の聖像あり余
紀伊國玉名郡守村の
民人靈 れい
と感 あは して
日希代の聖像あり

○神龍院 吉田村

宇治の深も深し
九江和為ハ作れ
下評兼俱の男

知家^{ちか}とて^{とら}後^ごと^と建^たて^て神^{かみ}居^いの
後^ご唐^{たう}と^と修^{しゆ}ま^るり

○法論山智福院 祇多園

本^{ほん}寺^{じゆ}虛^こを^を庭^{ぢやう}人^{にん}つ^つぎ^ぎら^ら
る^る寺^じ但^いし^し祇^ぎ多^たと^とて^て厨^{どし}子^し
之^こを^をあ^あり^りて^て印^{いん}を^を法^{ほふ}と^とり^り
たり^り古^こら^らり^りか^かの^のど^ど〜[〜]と^とぞ
同^{どう}基^きハ^ハ弘^{こう}法^{ほふ}と^と修^{しゆ}ま^るり

○新長谷寺 日正

山^{さん}蔭^{いん}中^{ちゆう}納^{なつ}言^{げん}の^の創^{そう}建^{けん}せ^せら^ら
る^るり^り本^{ほん}寺^じ智^ち世^せを^を弘^{こう}法^{ほふ}と^と
長^{ちやう}谷^こを^をあ^あり^りて^て故^こに^に弘^{こう}法^{ほふ}と^と

ちと号^{ごう}に^に法^{ほふ}師^しを^を巡^{めぐ}り^りの^の寺^じ
あり^り

○慈多倉山法雲寺 下志事村

寺^じ名^な天台^{たいたい}本^{ほん}寺^じを^を修^{しゆ}ま^るり^り
像^{ぞう}を^をあ^あり^り行^{ぎやう}基^き化^け 尚^{しやう}寺^じハ
推^{おし}古^こ天皇^{てんたい}の^の建^{けん}立^{りつ}し^して^て〜[〜]ら
か^か倉^{くら}蔭^{いん}倉^{くら}の^の里^りあり^りし^しり^りと
昔^{むかし}法^{ほふ}を^をあ^あり^りて^て本^{ほん}寺^じ
厨^{どし}子^しを^をあ^あり^りて^て法^{ほふ}と^とり^り
と^とり^りあ^あげ^げる^るの^の地^ぢを^をあ^あり^りて^て
安^{あん}を^をあ^あり^りて^て今^{いま}は^は慈^ち多^た倉^{くら}山^{さん}
の^の本^{ほん}寺^じと^と世^せ人^{にん}あり^り

○長徳山寺恩寺

神皇正統記 卷之五 長徳山寺

淨土宗法西四ヶ本寺院下下々
慈尊大徳の御創之開基ハ
法皇上人の御子勢親房より
お尋ね給ひの御末裔を以て
此より此寺法西四百陣より
そよりハ法西御天皇の御子
御孫大徳より御孫を以て
その御孫を以て 奉りこれを
あされみらひて諸の祈禱
ありて之より又よき御孫
川ふる所の御子上人の御命
ありてこれより之の御孫

文子御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間
御孫より一七〇の間

○干葉山光福寺

淨土宗法西四ヶ本寺院下下々
慈尊大徳の御創之開基ハ
法皇上人の御子勢親房より
お尋ね給ひの御末裔を以て
此より此寺法西四百陣より
そよりハ法西御天皇の御子
御孫大徳より御孫を以て
その御孫を以て 奉りこれを
あされみらひて諸の祈禱
ありて之より又よき御孫
川ふる所の御子上人の御命
ありてこれより之の御孫

○西後院

上毛寺西石後院村
河原子四百三十五石余

淨土名天台因基多後院
中後より法親王御位成て
三井寺門をの陸より南院
始末を後院と号中興重復
院増養修正是列三井の寺吏
又慈師三山の別ありこれ
由小井門を修驗道とて
山作と官領したる事

○圃法山頂妙寺

二条川沿東
ちの改修石

宇治名法花二十寺の陸
ありて日親上人の在基より

橋門の二天東ハ持國天西ハ多門
天ありて里と慶安の所のあり
あり又此寺の陸を名のり
こと天王寺古跡あり其の陸と
同調ありとあり

徳永承教の記

○正東山若王寺乗々院

ちの在石

宇治名天台本社慈師控院ハ
後白川法皇の勅額あり
額を名堂ハ形音山の本地十一面
観音と安堂と是は徳陽観音
うづりの其より常院管之ハ
修驗道とる候して本山山作
の檢定より後行者の法別

即ちびふ所の要室と云ふ
して聖徳太子門を入峯入蓮
の義と云ふ

○聖衆来迎山禅林寺

富名山に在りて西山派四のあり寺の
一あり始と云ふ法相宗之真意

二年西山上人任職より

治ち宗と云ふと云ふは和を

初創と云ふて真信信の草

創より又中興用基永観律

師より世伝永観を

本号阿波尾佛長三人宗の
立傳より世伝永観より

号と云ふ所は永保二年

二月より日産御小倉傳と云ふ

初傳の念佛と云ふと云ふ

ありしが乾の方と云ふ

踏踏より本尊檀より下

たよりて永観と云ふと云ふ

と云ふと云ふ律作感濟と云ふ

これぞ末世の云々と云ふ

接の隆統なりと云ふ自由

我記されたりと云ふ又取

来迎の松ハ堂ありあり或

四方不疑香世と云ふ

菩薩来集の松の松と云ふ

刀と云ふと云ふと云ふ

山号とてかゝる事とす

○瑞龍山太平興國南禪寺
治平栗田山北寺鎮千五百九拾石余

字多後臨海山五山の工之岡六

大明國のなるる新迦佛坐像

砂人成守るるり臨土ハ文珠

善賢立上柳子急下坐を

長尺余獅象長砂人成守り斗

令割力士立像三つてり斗

此力士の坐像二神圓座のた

お出で石ふふあさりと南の

権ふふハ 龜山太上皇の神牌

と坐すもる像ふハ達磨百ふ

臨海の像江安至山門と

又風橋と号して宮永四年

孫壹言虎の再建あり言虎

大坂出陣のたれ後若付死を

る家の牌と圖ふふ安を南

山ハとと 龜山法皇の坐を

たりしと大明國の福と之

因記ふつと 大々法皇

龜山院江安年中此院は難

宮とやうもわつ西意の初

宮中におへた事おろり

嬪妃たちふちるみおるり

陰陽乃ふこれとてうも

ひふ小故最臨光臣信正

ひい 此地を棟世小弱の像

と移ると云々ありて嵩山を
秘惜して障とせしむる
故に形密の誌は呪術巫祝
乃ちして百計とせしむる
四年東福寺の新普門
勅命と改く二十の禪侶と
率て宮中と安んずる
ゆるり坐禪しりるも怪
終よ立退ぬ 上皇威感乃
あり宮中とせしむる
無用として用山と改く
空閑禪師名は玄悟なるは
普門館と号し 聖一國師の
上よりあり 正應四年小室に

勅して大明國めと改く
三年支那天竺寺の例
准し 五山の上げ公令と
綿とせしむる 尾の画は古法眼
水飲の虎は探幽の事ありて
世ふるなり

号栗田宮 栗田口

○青蓮院 寺領千三百三石余

寺宗名天台要田法領の

寺門のあり 開基は傳教大師
中興大師は新法義あり
寺代は法小徳

○尊勝院 田名 寺領千二百三石余

空の天台本寺之三大師の
自他坐像三人余又南面大海
と号して延保の中陽院阿闍
梨の匠創り中興新觀音
と号し山門を掃屋列屋と
してまき尾形門跡の
所後動り又江ある處乃
社傳と号し如化とくハ
石動像と号す

栗田宮河内

○今尾形寺
佐藤氏精堂
空の天台本像ハ地龍菩薩の
立像三人は放光の他も
又大海をくくす

号して坐化龍とくす由來未
昔念女ありて常より坐像と
坐像ありて久し地龍是
と感念したるにて箱より
とれた坐像と持来りて坐像
ともくありてありて
まぬりこれありて寺号と
よびたて座申坐像と
とく又吾々院の号あり山門
の吾々院と通す

○桂
寺乃道院官行門の坐像の坐
号ニ蘇頂山桂齋行堂

空の天台旧寺乃道院官行門

月五十一とを年此地よりし
 たすふ本多氏法住松右の壇上
 子親重聖人神皇正統の予の親と
 安多と神代三人の五像あり
 小葵の所を衣子信守神の衣
 とすむの所あり往昔有る人
 九よりそゆなきしく若法わむ
 の所子よりありのひと死除
 たすひしぬの齋の誓と神代
 うつし海をせしむる所新
 うれは抽髪の手新よりあり
 今ハ一向宗とて勤王あり
 法永ま昔永の小も鎮六百八十三系
 ○華頂山大谷寺知恩教院

宗なる浄土宗の本寺の才一也
 順徳院建暦元年神劍勢親
 房源智人遠立本所源空
 上人と用守本所世に善き
 坐像也人余安竹法住徳法
 壇上ハ圓光大師の坐像也
 安多と大師名ハ源空号ハ
 法然依姓法深圓氏兵衛の人
 又晴國戦死の後敷岳より
 敷空と海より神皇と名め
 法永と名不問唐一切聖教と
 七度持回し遂に一向宗を
 のるを以てなり建暦二年四月
 亦百八十歳を遷化しり

今も毎々毎の四月十九日
一七日の月大住持あり
初念ふよつて浄土林
法道中日ハ念恩院法親王
法系堂あり浄土者あり
今日寺誓の大住正とらぬ
事血の血信大念堂列位
ふして法多信の老若あり
の

○一心院

大目五境内山あり

宗名於世の本山と稱ど念
院の末ちふして岡山社緑
登祿念上人吟應和あり

本寺阿法院仏立像二尺余
安行孫傳之世宗風八隱道を
むして任信官位昇り
とらる

○園山安養寺

大目西の申
寺銘指き余

宗名名所ふして山門の別屋
ふして傳教大師の用其あり
本寺阿法院佛安行孫の地
建久年中慈法和為信のふ
そは園阿上人任職せし
宗風をあらたむと源照
とて盲人琵琶の名人あり
天聴不達し後小松院の

恩冠と當り葉衣と編み
是盲人の衣を云ふ所の
とゞらり世盲人世り
名譽あらんことと高山す新
替りしことと年久し遠く
形も成然せし高寺乃
本堂と建立しとつて

右の南

○東山長樂寺 古の高斗

宗名時宗當寺り傳教大師
の用基ふして天台の列位也
中興國阿上人傳持して高
とありらる本寺十一面
觀音傳教大師唐土より

胡のこは海より都神かを
あつて一頭小龍の像を
よびてある大師社金堂
志すむいれは尊像して彼
尊像衣の袖小龍末より
別當らの本寺是より
堂の下の幡形ハ大師の地より
作の由縁をとりて極武皇
此寺と尊創して尊像を安
置したるよし又二話し
高山の地葉ハ高土のをもあ
ふ仰らるるかくる名はる
ともなり

○東大谷 きよあちのま

東大谷本殿も祖師の御廟
なり本尊の御座は仏立像也
三人余也阿彌陀佛也なりと
行山作の梅をそとへハナカ
行山作の梅をそとへハナカ
持するなりしりある御行山
氏とそとへ門まのちま重
と威は世傳と事部也
梅とそとへ世傳と事部也
威とそとへ世傳と事部也
書しおそふ海て事部也
とるり 聖人の御廟ハ後の
山後あり境と小虎あり

此石ころり聖人御生之地
抑も御押小御虎石河あり
いと 大岡素吉公傳んの
城中ありつたりなりを
これ地より又そとへつれ
いと

大谷の西ありあり

○金玉山双林寺 ちんぎん

宗名阿宗古ハ天台の別院
ありて信をぬる所の用基なり
御徳自中園の上人梅位
宗風をあらわすむおそる
如来聖像三尊を信をぬる
の化あり法書ハ天照を御

東の方丘あり

洛東祇園社の由あり

○安井親務寺

号光明院 華嚴王院 崇徳帝

宗廟より遷りてて後醍醐天皇の御代に
遷りてて崇徳院の御代に
の肉付の旧地あり 永享二年

八月 崇徳院 遷りてて

岩津の後 清美の地を以て

毎歳を以てするのやうに

光業よりして御りて大衆

法海よりして宗廟の名に

此所よりして遷りてて

あるに 崇徳帝の御代に

一 往來の地を以て

たより大衆を以て

詔を以てて堂を建立し

く此所よりして法を以て

光の御代に号して

准助 御名 清光殿と

後水尾院の御代に

一 遷りてて又法大師の御代に

興の社に崇徳天皇の御代に

金比羅権現の御代に

三位親政 世人の御代に

安井の令長 御代に

帝令長 御代に

和光 御代に

和光 御代に

のふ利を益つらざるくして故人
多し後終るる一又南寺
門ありと新文科と云つらく
仲林のはま山の目と云ふ
の猶やうりうりの今八家
立るるびなきを告い只
月又下と云ふ可くもはる海

古和古語のむ

○東山建仁寺 ちんじんじ
宗旨禪入山の先三位之本
新迦仏坐像三人斗 開基ハ
子光國師 兼上信正 諱 宗西
出生ハ佛中國名は佛の人ハ
して智陽氏なり 後世の

刺史自ら政の節終るり抄
高六 土御門屋の物形
しそ ねん源 ねん源の系割
しそ 地地をふ所 たきい
建仁三年 伽藍をこくく 道
管一物形をふつての号
をまつて寺号と云せり又
高屋の菩提樹ハ國師宗國
より伽藍のと地抄ゆり載
むれし

法系ねん通のふちねを右

○普賢菩薩六波羅密寺

宗古なる云 智徳後をどく
本号千一面記多立像法文

一丈空也上人の傳り 西國
十七歳のれれ又法陽記を巡
のそ一より同卷空也上人講
光勝 村工者 浄宇 天房
る年小夜病海舟して死を
るその報あは上人らとて
憐れなきいし一面記書の係
とゆつて車もせ世海中と
自記するありきたり一是列
あちのあちちり 記書小
供する 長多と夜人そあ
のくハ一日も年念して百歳の
しるいさぶくは
おと年これとす百 古例と

して毎年一えらも後一とい
しとより百氏今ふま例を以
て王族もづるてのちの
夜をすのめくとも周のり
こくこそ

古例の西あり

○等覺山念佛寺

号 等覺山

その名を云本より千の記を
立像三人年他詳しし守
同卷ハ弘法大師 中興千観
内供り内供ハ中綱玄橋氏
頼頭ハの男切名も親丸とよ
三井らふ入て形密ときりら
ふ退の意仏者ふして口ふ

仏号の終ざるとりて世人
念佛之人と稱し寺と名は
と号して堂の中の子太士ハ
そとをら名をのちそり
は名標の後世らうり
依て世人おる名ちとて
名ハ地名あり

○弥留寺

一名信光寺 伝古傳あり

宗名標本名業所如來坐像
をそ人案傳教大師の化又小聖
名之立像あり又古伝あり
此詳ありとて留此あり
冥途小をひたすといふ

これよりして毎の七月廿十日
法人多信して取まるといふ
同基弘法大師天文年中
汝器載禪師再興してあり
淨刹とて高阿建仁寺中
大昌院と名せり

法系八坂に 古伝あり

○龍峰山高臺寺

宗名標本名釈迦佛坐像
二尺八寸斗岡山ハる巖和尚
中興同基ハ三江和尚あり
昔も年中左岡秀吉公の
小の政所中再建の菩提所と
あり小才文及び法信令の結

梅子紙おぼくが〜山と
の傘の亭ハ小利休の好小
して豊公の内おねあり

洛東八坂御供号八坂寺

○靈應山法親寺

宗室深上之文太子の清浄宗創
り古八幡門伽藍法堂等
歳々より其廣久〜
今ハ五重の塔のそとに
昔の地も浄苑寺所傳の山
とれた塔傾き〜
その所浄苑塔のそとに
行きとお互頼これ〜
増重〜

つらり正元年中浄苑救護
作中興して福利寺今ハ
建行中興洞院為念

洛東法親のふち修三石余

○靈鷲山正法寺

修三石
灵山

宗室名財系〜と傳去大原の
開基ふして山門の別院とす
中興國何上人信りして宗
名改らる本号釈迦如来
坐像或人二三寸づりこれ
宗室初の本号なり〜
本号何法隆寺坐像三人
づり形詳〜世々齒佛
と移〜由縁ハ此像

たすく相好ありてひるま達の
あれたまふへ福をまらえ

法界八坂にちの百世四石

○音羽山清水寺

宗名法相善言兼西國明礼
十一歳の札所しなす十一面
あの子眼の如世名の立像
西ふ八人化人の出服至八思
沙門天地氣菩薩共々延法
法界の如く昔大和國小島寺
の沙門延法宝衆九年具足を
感する事ありて本は河の
邊ふれてこれハツの流ま全ま
の光あり源とつゆありこれ

一派の境ありてそは侍りて
とびひて白衣と着せる老
翁あり延法は老人とむらひて
并ハつらるる人ぞと同意と
云く我ハ初敷とらひては地
伝事殿二百歳と云ふり我
半信と信と久しき事と
かりし志あればま信物と
信と又侍の古木とひび
家これとらて大悲の像と
箱舎とたそんの志願あり
予ましくありまは極まり
妙教と成給一たすくま
延法りともうまの昔あ

の多きうをまゝり延法
此如小伝りう或は延法
の店をてまのきと平ら
よ山城國山科の東の麓りて
えれ家の履と捨つり延法思
らくさそへかの名公大悲の現
ましくりるしありうらうら
く大悲のそ徳とあをえん
とぬぐいまをよせり然して
法位よりたまひの法

桓武帝所宮延慶寺七の
坂上田村九喜庵のたけま
のまて出て本津川の東山
麻と捨つてまけ入るまを

延法の相好とまゝり
延法の是別大士の記

現まんと信んつまり
之り書き女こりり書きの曰

系ま高と法まんしてあの麻
と教を法又又の海門の

教ううせた世のま像を
あまりまんしてまぬ

んとりりせてけと延法
ままりまるまるまるまるま

ままりまるまるまるまるま
ままりまるまるまるまるま

ままりまるまるまるまるま
ままりまるまるまるまるま

法皇の御と申して是を建てて是を
赫奕とすも其目も亦現
りし別當の本を是より
去りし小出の嶮岨より
と建てし地ありし
其の地ありて地を平
りて傳叙と建て安
まり同二十年田村丸
征討の詔と有りて
此を是より新云
りて是を同廿四年田村丸
大政官の宮とありて
寺を建てし勅
又大同二年

伽藍と申し
清水と申し

日お梅門の

○奉を寺 信号子安観音

字名を言本より
坐像より年
年中 天照大神の
聖武帝の后妃
皇創し是より
ありて古
ある小像の
と蓋と感
一寸八分の
皇女草

帝ノ是よりあま子安部親王
と稱せし小像胎内ニ宿る之

清水坂

○まろ福寺 号ニ大日堂

出田寺ハ清水水ちの末刹ニ在り

大日如来坐像丈人斗弘法

大伴の作之堂中ニ八角の輪

花あり一角ごとふあま子行孫

胎内ノ文字ありニ内一方ハ

西教チ去盛上人ノ遺蹟あり

○經書堂來迎院 大日如

宗とるま云本尊聖徳太子

十六方ノ像丈ニ人斗由自他

より古聖徳太子ありおひ

ニ尊の胎内と空中ニ御

たりし此とと事創りあり

よりを後小石と集りあつ

男女おんな亦大系經と書りあ自

他解經の圖と換けたまふあ

みま坂の末

○法園寺 ち竹百々七石

宗多時宗亦号行法匠佛

立像三人宗亦行孫の比より

開基此より人三十二世号行上

人事創之は信園白秀次云

由依一たり入元あち号豊國

より後法園小改じ

修ふる寺坂の末

○西大各

西六条本願寺祖師親鸞上人
の御本願之本尊阿彌陀佛
丈或人奈堂内龍巻山の額
寂如淨門主の宗師廟ありハ
後の言あり明慧堂の額
同淨宗よりしるの方門末の
墳墓ありしを法門あり池を
堀水を湛水をもて池に
あり梅楓松栢を栽ま
るの杖の傍系双より法陽の
強空松場の一ツもをり

修る各

○新中山法園寺

中より初天台今言ちり
本尊女子親なる立像三人斗
菩薩神の化より延暦二十
年法師より創し後を保字
佐伯公初朝長再興して勅額
寺とす

寺領より百三十三石余

○妙法院宮 修る大佛

御寺あり天台法代は法親王
御法誓之岡基ハ山門惠亮
御心也 山より日吉の社あり
大佛殿并三十三間堂あり

宮の領しなすふぬり

法皇太子の御

○東山智徳院 古伝三百名

字ありまう云新義法流の学室

らり本尊ふ動明玉坐像丈

三斗斗長教大師の化あり

開基ハ正憲法印あり當院ハ

豊臣秀吉公御子捨君子世

追福のくみふ祥雲ちと事創

して禪刹守慶長年中

紀州根来ちて後学室の

斷絶より新義の徒これと

歎て誓祈はこれありて祥

雲ちと揚りて智徳院と号ス

ちあり

○延仁寺旧傳

此考山州名跡志ノ三卷六十五丁親鸞聖人傳曰

遙尔河東のそと歷々河内赤松

西の極東を過耶のち北西に延仁ちふ

葬しとまうとつりありそん如上人をも

の傳河内ふちうされたりその終る

けはのち人信る誠如ま池のぬれ田

畑と元大谷又火をう谷柄といふ

住昔れも道種之地をうりけ流ハ

聖人の傳法を案出所の南を山

と傳て九重に塔を築り三月月楊

る希實公の法孫孝敏の大臣は此昔

塔ありて等身の毘沙門天と安を

延暦寺塔より今けり像は在御中
に安坐せりけ塔の海由は水瀧を本
堂の前を所余も塔の前より西を
かの中を谷より八町余も南に
今け塔は延暦寺合せりけは藝所
も是長の始はまら連綿たりけり
延暦寺中も其國の神勅と建まより
藝所の烟神殿おろる今け西大谷
の西に余は御所の南に神より西
山の名も今け所おろる今けは其
も西に今けは延暦寺より其基の
城の玉より味とる延暦寺佛と
是せし今けは山の神火を火を
是りけを今けは水瀧を今けは

とあり

西面通りの方

○東山方廣寺 号二大佛殿

字名天台 後陽成院清宇

天正六年豊長秀吉云御建

立り本尊盧舍那佛の坐

像法文ヶ古丈人妻をハモ下

あり度生七の十二月甲辰

同福と月十六子秀吉云再嘗

寛文政十七月二雷火不同縁

今礎のこはあり

ちの松を斗 大仏市

○三十三間堂蓮華王院

又号三郎麻山平念寺

ウら多天台本寺子親を名
の坐像八人康慶化 後白川
法皇沙軌も承元年子祈の親
なる大土とあるに^は慶徳
たの化より^は由來ハ 法皇常
頭痛の沙悩あり^は然也^は移^は既
祈^はせらる^はと^は権^は次^は告^は命^はより
周^は情^は善^はめ^は祈^はせ^はり^はと^は
のる^は善^はめ^は祈^はせ^はり^はと^は善^はめ
告^は命^はより^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
然^は也^はの^は善^はめ^は祈^はせ^はり^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
功^は力^はよ^はり^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
か^はされ^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
朽^はら^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
岩^は田^は川^はの^は水^は知^はふ

あり^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
と^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
四^は名^はの^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
齋^はを^は垢^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
子^は納^はり^は柳^はを^は伐^はて^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
と^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
あ^はり^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
又^は此^は堂^はの^は裏^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
初^はハ^は今^は在^は所^はの^は列^は石^は梅^は垣^はい^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
や^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は

○ 妙暗寺 七白ふあ

宗^は名^は後^は速^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は
處^はを^は傍^はの^はち^は西^は回^はり^はと^は善^はめ^は祈^はせ^はり^は

唐土傳之れ不屬之

唐土傳之れ

○泰山養源院

唐土傳之れ

字名天台山門下屬之本寺行徳
名心他者信ハ海井を改せ其後
くり草創は信心寺古源院

○觀音寺

新修

本寺観音寺法法大郎の他
西國十の寺也

○東山泉涌寺

唐土傳之れ

字名天台山門下屬之本寺行徳
字名天台山門下屬之本寺行徳
字名天台山門下屬之本寺行徳

坐像の三佛七安室と初りハ

法法大郎字基より文徳と市

法字二左所法嗣云道立

後仍律師再長法泉涌寺

こよりて泉涌寺と改心人皇

四子代曰系院より三年行代

陵とあり

○慧日山東福寺

唐土傳之れ

字名天台山門下屬之本寺行徳
九條愛白道立云々創用山ハ

重一國所 以後本寺新造坐像
又又画圓坐像此典子の尊迹刻

又通天橋あり紅楓を觀ふは
よき人の務多也

城南深草村実塔寺のふ

○百丈山石峯禪寺

字多程実磔六世千早和尙の
開基あり布多神迦仏菩薩
万福あり属

○深草山実塔寺

大日ふ
ちの四石余

字多程実法陽妙形あり属と
廓修ふ深山日修ふ人の之り
題目の石塔ありあり以下日蓮
日郎の遺骨を収むの實塔あり
と号 けうえんといふ延慶年る
はの修む物あり

○瑞光寺

大日ふの南

字多程実法律善学法陽の
妙形あり属と本寺神迦佛
胎肉ふ五腕六指あり四層の
え返ふ人の創と

深草のふたふと

○即成就院

りふありあり

字多程実字多程字多程実法陽の
初本寺の法隆聖像親王亦ふの
善菩薩ありふ直儀の地之安永
の法を深草を市する追討陣
のよに新敷一なる府の功を
修しむ修ふは寺の擁護と

て堂舎を修造し一刹新を
即成就院と名附し之 又
乙訓新寺堂舎のふも即成就
として形源を寺の由緒ありと
之り詳す源經考卷一

伏見孫の末由ま西の通

○御堂山聖徳寺

宇多天皇御時延山どく下屬守延古
大相由忠仁云建立しらひ負觀
寺の旧跡ありて後日秀上人再興
をおふ遍照の御年の墨字深の
極あり但旧地は遙長

女日あり申深あり

○聖雲山欣淨寺

宇多天皇御時本寺弥勒佛聖徳太子
十六年の淨化より此寺像釈
迦孫是日三身合禱也 同山ハ
是元祿所中此寺言事又傳去
ありて竹林山御堂寺安寺院
と号又今禱不傳して旧名を改む
跡地三ノへ御堂寺將の宅地あり
とありあり女日ありの跡に殿の後
あり

伏見豊後橋のか

○括月山月栴院

川岸あり

宇多天皇御時本寺金剛院の末より
本寺釈迦坐像二尺あり御堂寺
大明國作の法嗣のの建立

高僧の遺徳を慕ふに於ては、
して沙陽殿に於ての如くあり

宇治郡佐々木山の事

○天王山佛國寺

あり

宇治郡禪黃檗山万福寺の事あり
本寺が新田氏に傳へたる因基八景集
に世に名を知らる

佐々木氏の事あり

○六地藏 号大蔵寺

宇治郡沙石知恩院に屬す本寺
地蔵菩薩の像あり此像ハ仁壽二年
少皇皇眞太子が御生誕の地を
御一獲して後六神の地蔵菩薩と
きざりてあり平安五年

中平相公は法皇西元法皇
命して都の入口毎に堂と建
此寺は縁とありて安んずる

山科の御四の宮村あり

○楊柳山十禪寺

宇治郡天台本寺聖觀音の像
あり寺の聖徳太子の御生誕の
地あり此像ハ人康親王の
御所ありて後よりあり此像ハ
因縁ありて後よりあり此像ハ
ヤシの天和年中法皇法皇中
興してありて後よりあり此像ハ
百年代明正院聖徳太子を感得
してありて後よりあり此像ハ

ありて二重のち園と建つれ
得月庵と稱す 上の里ありく
初幸ゆりて山水をせし
りてあり

山科に後建のあり

○思沙門堂

思沙門堂のあり

思沙門堂 天台臨王寺宮沙魚
堂一也本堂は思沙門天 開基ハ
信教大御堂文永年中思沙門
公海大信正再興りてあり也

思沙門堂のあり

○吉祥山安祥寺

号三つ堂あり

吉祥山安祥寺 号三つ堂あり
字ありて言紀分ち山山宮性
院号常不之本堂ありて西御堂

立像あり余自記元年仁明天皇
妃五条の后順子の法建立て
開基ありて推信心中具八應等
上人あり

東山科津坊 東山科津坊
西山科津坊 西山科津坊

文昭年中甲寅八世法皇の御人
法建立てて宮如久徳如久
三代位殿ありてありあり
法皇定親及び山門三井の流
伝傳起して當今悉く焼
失れ今その御代に再建ありて
毎年三月廿七日の御忌

飛鳥ありて諸人詔郡より
群鳥とて道如實如あつ人の
掘目ありあり

山科小山村の上あり

○牛尾山法藏寺

宇多天皇言律本寺土面掘者
立像を人守天皇天皇御代
ありて汝門延法の子創法水
日付の建立あり世ありし
延法寺羽川の水とたつて
新殿居士の番と珍ひ大徳の
位階ありとてとありし
あり世ありしありしありし
四代ハ今の山上にありあり

中は天小養かろ今のどとととととと世
の再建あり

山科御お名山

○葦頂山元慶寺 又應徳寺

宇多天皇初り八天台道子孫と改
本寺を葦頂山元慶寺と改
傍西通延の化よりとあり
通照陽成帝の御代貞観十
年の草創之中はのち後長
徳天皇の後長徳天皇久一天皇
三年山門妙嚴律師本寺再
建あり

小聖 法領六百枚石

○隨心院御門跡 号曼荼羅寺

京師律根巻五

所字少名言本名如之偏記
三足名心用基八仁海傍心不
して市代く沙門の心録しく
松家より沙任職志なき寛仁
二子六月大早^{あつり}下仁海傍心不
初して神泉苑あかいて法^{あまみ}雨
の法を修甲む時ふ大雨ふま
後九夜^{あまみ}詔のりりふ毎日雨
ありあふ世人雨の信いふい
しらん^{あまみ}沙と違ふ法多し
小阿う宅八百夜の通あり

小阿の南多なるありちんり移る

○深雪山醍醐寺 号上醍醐
字あま言本名如意持記言

聖宝傍心他用基聖宝傍心
延正四年の建ふふしく醍醐市
村より市朱雀市の法あり
西國形れ十一書のれあり

七回本山の法古六百八十石

○三寶院御門の 号下の醍醐
御宗名言本名本名善作
如来坐像を回守回縁の法
寺の古法建互るり聖宝傍心
用基より修結南山の沙門代
沙門のけ任職松家の又達法
嗣あり

醍醐の古のりあり

○一言寺 又号三那那院

宗室の言 醍醐寺に属すと
ちりちり十一西千の観音立像
七千あり安ら給信苗も本歟
火納玄入道信西の女に彼の肉付
あり

日村の南日野村あり

○日野某師号素光山法界一
宗あり言本号某師如未
全洞坐像寺つり此祥あり
尚寺初八日野宗室のた歟
ありて是頃某師の建あり
去る婦乳の少き女新歟を
雪送ありあり

南山科のに勧修寺村

○勧修寺 寺領千二十石
寺あり言代々津門に中法
勢あり 本ありあり新あり
立像世あり像ハ延喜の寺
あり身の像ありといふ此祥
あり寺因基ハ范俊信正小所
の成号の才子あり羽信正号
延喜元年右大臣定方公の由
建ありあり

宇治大臨田

○黄檗山に福寺 寺領百石
宗あり祥英傑流の不定本号
釈迦仏坐像あり平大明の佛工
の成ありといふ岡山隠え和尚ハ

大明福及福清の人ふして
姓ハ林諱ハ隆時字ハ隆之
本朝養應三年ふあ源一
治二年 公命ふらして地
たよりり寛文元年九月より
伽藍おふい法をを草創し
精舎の經營ありハ云風を
換一 名もて黄蘗寺といふ
同十三日四月二日 後水尾帝
より大光寺出國河の号を
賜ふ

目本の南大風寺のありあり

○明星山三室カ寺

宇治台天台園城寺より属す

本寺千子銀を名圖浮檀金の
立像ふして丈ヶ守式歩化
詳々く守 徳首宇治山の
左岩側の水をより出取
の号像ありといふ 光仁天皇
此寺を創 岡基ハ高徳寺作
中興隆の法所なり 西園
明礼十者の礼所也

目本の南大風寺のありあり

○朝日山常光寺放生院 号持寺

宇治台律本寺地所菩薩の
立像ふらんとり 他詳々く守
用基ハ道徳和尚より 和尙
法相成実の方便はて之を信持

造らるる後身聖菩薩
くふおひて栴檀を
此ゆふ栴檀の号なり

七日のあり

○朝日山志人院

宇奈言本寺二神事
右大日如来坐像一尺
右聖観音坐像一尺
二尊とも似像なり
天竺心傳師諱源信和
人叡山志人院の室
入て
秘の二字をきり
一向
専念れを信す
寛仁
三年六月十日
寂す時
天樂

虚空子幼が死
蕙山中の
西の方

七日のあり
一号観音導利院

○佛徳山真聖実林寺

宇奈言禪曹洞派
座像一尺
道元和尚
の里
和尚中興
直政此唐

么世那

○鳳凰山平字院

宇奈言
宇奈言天台三井

竹は位佛坐像言平定親
 の地有り坐肉七押小尤ふの
 喜さこの像あり同日登并
 三方の唐戸小ハ津七九糸の相
 公画く絵作の毛者成威の
 筆上ふ色紙形ありて都聖の
 文を書け申納言信房江の墨
 痕有り 天蓋櫻路ハ七竅成
 ちりから古代の作そのありて
 美聲莊嚴他よりびる
 又佛殿ハ鳳凰をかざりたる右
 のより橋回廊をとお翠と
 後宵乃橋を尾とす棟の上
 不雌雄の鳳凰あり金網を以

造る風ふ所を新あり
 鳳凰堂とてふ為院初りハ
 河東た名臣越云の別荘あり
 しが後陽成院時地小行宮
 と建れ宇治院と号し又
 兼平の御門朱雀院も此ありて
 北極志たす小夫とりの宮左
 大臣雅信云の志願とありしが
 長徳元年十月清和天皇白此
 院を以て山莊とて遊獵の
 場とぬいそ後皇の宇治
 園白杉通云永正七年寺修
 せし平等院と号し法華
 三昧を修せしめて大徳正

初号と深山と一 中興心養
上人より浄土門を善導より

○金倉院 女目西門の古白門と
いふあり

宗名天台本号文殊菩薩
祕佛化祥を守りこれと今
高麗ありたりと入用巻
思惟上人今八巻ありて何
宗の信の信りともあり

○亀井山古堂院 或はまの山と有
や活岩平村民家のあり

宗名古堂本号華何仏立
像と今平一と巻化用巻ハ
弘法大師 善後ふよりて

廣孝子中再再

○普陀山禅定寺 右月久良廿四丁に
あり

宗名禪曹洞本号十一面観
音と今徳今人定朝化南寺ハ古
大架ありて大門の初々大門田
と号して南方一丁あり

伊豆宮 急足庵を下大徳紙
にて山内信あり 平定文
中興月西和當りのわく再興
あり

○巖平山慈安寺 田原郷名村民家の
北にあり

宗名禪曹洞本号あり

御衣を立傳七十八年此傳守
開卷八十二と云わぬと

○寂光山吾福寺 日永氏史の
南有

之が名浄土大本の事業作め来
坐傳三十八年此傳守くは
新ね給ぬ之國を古日本のをこ
老御本経御本と云ふのあり是
ひし浄土の本を皇世事ありと
さけて吉野山不周庄くはふ
と此大伴の王子疑心を懐て
顔色いなり天白と云ふ事
は事よひいけぬと云うた事くふ
清けらひけだうく見えぬと

里くあやしと御衣を授又其
てまうらうそを皇山隈せられ
物命ふりく御衣を中時
此御衣生立病と云ふと浄自
ち中く少けて替ひぬる人
ふ富貴ふぬい事をも至る好
大伴皇子ら傳の合戦あまけ
自殺したる人なりそれよりてまを
のま子に伝あつて天武天皇
と移と此御衣を御衣と
御衣を伝し九方四下のおも
とらり然して生る御衣
考へらるる御衣の事
今あましと山城おと云伝

の其ころの天皇は皇孫と
侍りて古蹟ありて今も
毎の秋あまふりてあり

相手を和事御所山村の

○鷲峰山金胎寺 巖あり

字ありて言ふは法勒聖像
三人斗行奉の化天武天皇の
法皇白鳳元年九月後の優
巴の寒此山ありて天竺乃
西並勢をこをうりて山のまね
ハ此のまねを小まねに
秋迦嶽 阿波尾嶽 法勒嶽
突生嶽 阿闍嶽 虚空藏嶽
不空嶽 般若嶽と号し

巖形小なりて修行をうりて
ありてありて是を南山の用基と
とをいふは之を市山なりて昔老
古の古紙の白山の坊老木お徳
法皇の古紙をまゝして山
し七事伽藍を造りて好
世の古蹟ありて法皇をうりて
あり

古白御所毎の奥

○百文山大智寺 小杉村あり

字名祿江ありて水澤を属す
古寺なりて法皇の御所ありて
法皇用山大智寺所禪理有字
大有聖所今言はれの子にあり

とものいざりしガチの町初て父母
あ向てきくこれハ良井也とふ
父母大抵うぢりきとて遠く山邊
るを初に多甲賀多夜川女倍
の文殊を信し一孝信の道この
湯舟材をとりりしに袖木が舞
そつちか入休りふりまのいそ
る山は山水の佳境ありと師訓
栢の實一斗を携つこの山を
巖上ふ坐經よりこと一ふ日
りりしに例の巖をめぐりし
さげて文殊井出次し一室中
よまきとことおありてきなきふ
所説法限りあり巖をめぐり

栢の實一斗をいぢあまき
芽を生ることをおありして
林をめぐりし今小杉村のうやま
これよりそ好此ふふ一室を
建立して文殊を安んず
本願ハ山名仙老寺中興也
文巖わあるハ石橋の尾山御依
りて修成建立したるふ

○鹿路山坐玉寺 本津川の坐玉寺の
山坐玉寺

守あらし言新義本言活勒仏
自然石小彫性骨天武天皇
此山小松権志とすは山坐玉の
一膝を履てりごう守

天白く空を紅くし、あまを
 けきしあぬく此山に仏國を造
 りてとてと祈りてふ速く
 なるをくれはるにせしめて
 したまふ葡萄を酒して還幸
 するいと遠く仏國を建言并
 佛國を信儀と志の白風十二
 子のまをりて子創の初山嶽
 雲霧立のやりてねのこし七白
 七把をるてきりて然てん
 此ハ法勒おらん虚空花甚花
 の形をときどみあふす 是れ
 捨代の天工山魏くちにおねん
 の量ちるふよあふん

本河川上西の方小田原あり

○小田原山淨福理寺 又号「秘密 注嚴院」

字多法相の言天えのち多
 波神建立之本宮著作坐像
 みるんりり奉の化主好古余
 年を経て義以之人再世して
 以作定胡彫じとるの法尼
 の大像九神と安んずとてふ
 九神半と号ん

此のつ 瓶原の生る村の山上よ

○海徳山寺

字多法相の本宮千一兩銀を立像
 一丈半の像あり又「開基」も
 害をくべん重武者の物影也

申吾能得後之人

綺田の東津きき村より

○北吉野山神事寺

宇治名を言ふ本寺は花王権現の
立像今人年役初若の他同基
洋多し守押世山をとおる所と
しハ昔おあ苦りも毒蛇かて
世山の人を恨つてありのて
能く山をちまねは 山と
ちまねは誰してま信せしより
け号ありしより

綺田村あり

○蓮門山登仙寺 一号二紙幡寺

宇治名を言ふ本寺は新道公世宗

の坐像むヶ八人年化洋多し

ひし世里小居もふ志あり

人あり廿一人をりらり或日

ひ女田づつたひららう主人登と

よりて教さんとまらると堂よりて

教有りたり又あり日又耕化の

とまらるふむらふ地の陸を春

んとまらとんて衣ふおりの父の

地ふいやうと陸をたまけやぶ

家女をまき一尊ふとんとひ

なれハ彼地け人の教をたてのこ

うけら陸を放てまらぬ父あふ

より悔くともし早登をれく

とらんとまらとんて衣ふおりの父の

とらんとまらとんて衣ふおりの父の

初文の法衣冠の人々ありと
海軍にまじりてまじりて父孫
とてくまおらんとてまらべ
とていふれは別々の女也と
てて一室を思くともて中
て普門品を痛し隠れあり
しが三つとてけさびハ池の形
をがくすあり女のうれたる室
ををいひて尾少てをたえ
これ父母もはるるありしが
づくありておまの蟹もあり
地とたういぢとよ枝とさきり
て女の紐をすくひて蟹も
蟹も

死をうとておまをすくひて
池をけりて人斗の記も出れ
のいも優しとていひて女も
も廻りて父母の御ひ大形
ず別を蟹も地の道細のこ
一寺とて建をせしけ寺とて

おは上御村あり

○ 泉橋寺 又号ニ橋寺

泉なるを云ふなり地を善菩薩
の立像二尺ありて心像の他
并基ハ初基善菩薩天平十三年
泉川の橋を造り供養とせし
道場あり

○大智寺

本は大津村の三智寺
一号ニ栴檀寺

字名律本寺文殊菩薩摩訶
のくまをまむて二人のまむけ
本寺の胎内小玉の化の同寺
を納むついで昇きよ慈しん上人のゆ
泉いづみ河の栴せん檀だんの好こう栴ぜん檀だんら
水みづ庭にわふおきり敷しきり百年をへて
長ながくくまをまむけむけ上人じゆん是と
りて文殊の像を彫うくくかそ
別わかれれりり

○岡分寺

本寺川原村あり

字名まの言本寺阿沙陀佛の
聖像三人化詳しやうりり大 聖武

天皇の御形古々今今不國令寺
を建たてたふ山やま城じやう國くに分ぶんりり好こう善ぜん院いん
唐たう寺じ今いま津つ寺じ宗そうのの佛ぶつ像ざう

○哀堂

大智寺の南あり

字名津つ寺じ本ほん寺じ阿あ沙さ陀だ佛ぶつ像ざう
大だい智ち寺じ今いま津つ寺じ宗そうのの佛ぶつ像ざう
りて津つ寺じ今いま津つ寺じ宗そうのの佛ぶつ像ざう
附つきき日に本ほん院いんのの南なん留りゆうの中なかにに本ほん寺じ
とをを納なめめりり古こ彼か白はく木ぼくをを納なめめりり
そをを美みををううてて院いんととせせんんととるる系けい
樹じゆハハ生せいままのの水みづとと実みをを全ぜんくくとと
名なりりととせ

○松平寺

本寺本一町あり

室多自祥本多十一兩部言立像
三人余部基他 聖武大帝の法
願より持戒の尼を接しわ
かすらん是列をの皇太后の由
就日本一寺の國分尼とん

綴書新本付たり

○ 皇陽山妙法禪寺 ち能く石

室多自祥本多十兩部言立像
新色以立像一人云す并 聖武
大應國作に意中より創る
の比一休和尙再興して 殊恩
菴よりつとふ位しむこれ今
の方より

○ 玉井寺 井田里水を行たり

室多自祥の言付本多聖武
開基是言竹園中無性海
比丘に在中小玉の井 かひ

口部修言付小

○ 段々良不動堂 山よりあり

室多自祥の言付本多聖武
大伴能 れいざん 古よりあり

口部修言付小

○ 大津寺親山寺

室多自祥の言付本多聖武
室多自祥の言付本多聖武
室多自祥の言付本多聖武
室多自祥の言付本多聖武

久世源定少将より水

○阿波尾寺 四丁余あり

字名津去本寺行法位仏立像
大々寺人皇太子是古流の法位位
なる水に降りて源綱に揚るる
糸のそり像あり

綴長源田力山の林舞

○大々宗院 科々里

字名律本寺千子親善立像
小々寺斗宗基興皇菩薩神宮
寺ハ当院の修より糸あり

大日如来神後の西

○極楽寺 佛ををり

本寺行法位位 秘仏 照土 宗 観音

西 野堂 立像 此寺ハ 山
左 神の清心神よりとつり

大日如来を坂のふり

○男山護國寺

本寺 兼作公 出寺 古妙 崇
とつり 清神 造水 寺の 建立

大日如来男山の山

○雄徳山神鷹寺 寺ハ 二百石

字名 多程 曹阿 應仁帝の 神牌と
安馬と 文流の 甲秀 寺云 執解

征伐の 両首途 小寺 神功皇后の
古地を 遷墓 一 尚社を 後の 時

可も 小入 寺ハ 一 所 寺の 寺の 附
し 寺ハ 一 寺

口本の志述あり

○徳運山正法寺 古伝の石
字あり御公念恩寺に属すと本
寺阿波尾伝坐像三人余念恩
高ら因誓上人聖天を尊ん好
聖譽上人中興して御公念恩
後高ら正法寺の浄土に信譽上人
開して説法す不修の殿を以て
高ら念恩の殿を修して勅額あり

○雄徳山日蓮寺 山本殿未申のあり

字あり念恩寺に属すと本
寺阿波尾伝坐像三人余念恩
高ら念恩の殿を修して勅額あり

みうて 足を切らぬれども
神勅ありは速く平給とて
神恩結せんし寺を建てる
しうそ好若殿せんとす
小事を再せん

古本不有あり

○久修寺

字あり律本寺神如基の他
け縁すは川に流るる木と
りて地ありあり

○相應寺 乙川新城南山寺

字あり言本寺聖師坐像一人
りて身之説公年壹萬國基

高野山初河内三つの中は高野

○神宮寺

大日如来妙喜庵の御所
寺伝不詳

字名待本寺乃行住位は立像大
之入斗ハ勝之の山化真觀の
中より剣冨基大女古新教和為
ろり今も水偏ち不属と

大日如来古伝古寺

○補陀落山冥福寺 号宝寺

字名高言本寺十一面觀音を
立像古寺寺聖武年以基
お化重武年本願寺て聖基
乃基大土之古寺什寶寺出
小槌あり新神に祀して聖武

松マツ不フ持テしとあり所不富寺と
しやとと

大日如来の持あり

○妙喜庵

字名福寺福寺玉属は不
とふ言十一面觀音立像二入斗
應安年春岳芳福河の聖劍
け不カふコ利休位して二聖女の
圃を建る秀言云の経ありし
とと又存中ふ一株のねありと
袖拂のねとて世のありと

大日如来早山の事

○觀音寺

字名高言本寺觀音の立像

又平年重徳を子の山代屋基
弘法大王よりえ編みよふ令
以空傳心中興して今のごとく
再建あり又平号ハ新基不
た他世も招きの御多しといふ

大日如来の御像あり

○山代屋成徳院

字あり浄土布多し法位仏坐像
三人守忠心他國基教同法通

大日如来金山の面西山の
神あり

○醫王山四心寺 俗号ニ山寺

字あり天台本号善師坐像
三人余白を子也殿下下座
の四心創て建武元年仁のそ乳

より甚る唐一今も多座に記し

大日如来神足の南

○勝龍寺 俗号ニ新基あり

字ありを言中号千面御音
立像正世法仰世之巡統の
一いんあり

大日如来國田村あり

○仁和山三尊寺

字あり淨土本号千面御佛
立像國基入定ありといふあり

口下極地あり

○向黃山淨海寺 号ニ多子院

字ありを言本号多子御音
立像八人定胡の他出寺ハ昔

平刺^{ヒラサ}石^{イシ}末^{マタ}形^{カタ}丹^ニ波^ハ少^シ将^{シヤウ}威^イ帝^{テイ}
流^{リウ}花^カの^ノ付^{ツキ}取^{トル}ありけ^レ本^{ホン}寺^{ジヤウ}を^シ
新^{シン}築^{キヤク}一^{イツ}遠^{エン}子^シ御^ミ所^{シヨ}ありの^ノ法^{ホウ}師^シ
の^ノ在^{アイ}り^ルありと^シ建^{ケン}立^{リツ}せし^シと^シ

日向^{ミナソト}河^カ末^{マタ}の^ノ塔^{トウ}
あり

○吉野^{ヨシノ}寺^{ジヤウ}

宇^ウ智^チ名^ナ法^{ホウ}華^カ林^{リン}如^{ニョ}來^{ライ}寺^{ジヤウ}と^シ屬^{ゾク}と^シ
當^{トウ}寺^{ジヤウ}初^{シロ}ハ^シ上^{ウヘ}皇^{スミ}宗^{ソウ}と^シて^シと^シて^シ
と^シ寺^{ジヤウ}日^{ニチ}像^{ゾウ}上^{ウヘ}へ^シり^リ改^{カイ}改^{カイ}して

口^ク寺^{ジヤウ}乃^ノ民^{ミン}衆^{シュウ}の^ノ如^{ニョ}山^{サン}あり

○佛^{ブツ}華^カ林^{リン}山^{サン}如^{ニョ}來^{ライ}寺^{ジヤウ} 号^{ゴウ}法^{ホウ}善^{ゼン}院^{イン}

宇^ウ智^チ名^ナ天^{テン}台^{ダイ}本^{ホン}寺^{ジヤウ}と^シて^シ報^{ホウ}善^{ゼン}聖^{セイ}像^{ゾウ}
三^{サン}人^{ニン}平^{ヘイ}岡^{カン}基^キ急^{キウ}足^{ソク}と^シて^シ寺^{ジヤウ}ハ
敷^{シキ}山^{サン}の^ノ列^{レツ}後^ゴありて^シ西^{セイ}國^{コク}世^セ之^ノ國^{コク}

の^ノ道^{ドウ}信^{シン}灌^{カン}頂^{テイ}執^{シツ}約^{ヤク}の^ノた^タ光^{クワウ}建^{ケン}立^{リツ}立^{リツ}
と^シり^リあり

西^{セイ}之^ノ今^{イマ}里^リあり

○大^{ダイ}慈^ジ山^{サン}乙^{イツ}刺^シ寺^{ジヤウ} 号^{ゴウ}法^{ホウ}善^{ゼン}寺^{ジヤウ}

宇^ウ智^チ名^ナと^シて^シ云^{クニ}な^ルと^シる^ル法^{ホウ}善^{ゼン}大^{ダイ}作^{サク}
坐^ザ像^{ゾウ}三^{サン}人^{ニン}當^{トウ}寺^{ジヤウ}ハ^シ推^{ツイ}古^コ帝^{テイ}の^ノ教^{キヤウ}
石^{シヤク}室^{シツ}像^{ゾウ}を^シ子^シの^ノ室^{シツ}基^キと^シり^リを^シ法^{ホウ}善^{ゼン}

仁^ニ子^シ大^{ダイ}師^シ列^{レツ}為^イ職^{シツ}と^シり^リハ^シ佛^{ブツ}善^{ゼン}
の^ノ五^ゴ相^{シャウ}と^シり^リ大^{ダイ}作^{サク}の^ノ像^{ゾウ}を^シ彫^{テウ}
た^タと^シて^シ石^{シヤク}首^{シュ}を^シ法^{ホウ}善^{ゼン}に^ニ次^ジして

神^{カミ}像^{ゾウ}ふ^フま^マと^シり^リ是^シを^シ尊^{ソウ}法^{ホウ}
擁^{オウ}護^ゴの^ノ志^シと^シり^リと^シて^シ加^カ上^{ジョウ}神^{カミ}仏^{ブツ}
合^{カウ}神^{シン}の^ノ四^シ教^{キヤウ}と^シり^リ例^{レイ}子^シ之^ノ月^{ゲツ}五^ゴ首^{シュ}
安^{アン}住^{ジュ}又^{マタ}之^ノ實^{ジツ}を^シ平^{ヘイ}法^{ホウ}皇^{スミ}殿^{テン}履^{リョ}の^ノ

初め初まると志すも入回法皇
寺の号あり

日清天皇名民あかしあり

○浄心山浄心寺

あまの行淨徳の恵ん世中此
を廢してあり其政字のまあり

日西天皇の坤

○立教山揚名寺 柳名あり

あまのあまの報名立像を人平
あまのあまの信皇水鏡上人
の代位のいひあまのと國地の余
遂ふ例と建立したるま
○揚名山の滝ハ柳名の下澄た
しあり此水あまのほくハ眼候

忽平念の具候ありて今も
眼候の人を寺に候るも物し

日西天皇の南十町余五所あり

○あま山真徳寺 号二寂照院

あまのまを云ふまをあまの報名立
像三人平法法左傳化聖塔を雄
傳候にあまの寺のうしろの山より
人破岩と号するあり山あり
古抄のまを薩長にまをまを
現れまの傳候ま法法とまを
あまのまを山あり又まをまハ
推本のまを山ありまをまを
あまの山のまをありまを

○長法寺 長法寺の南にあり

宇治の天台本尊の御尊を聖像
三人宗因を三井の子に御尊
付多ふ漢画の涅槃像あり
此圖は入涅槃の後西母夫人
のくろ金輪より御尊に
光の如く放光して菩薩の如
く多ふ御尊を御尊より体相
聖七十八人中七人あり御尊に

口を多し御尊あり

○諸國山光明寺 寺は宇治に在り

号三尊佛三昧院
宇治の山光西山の一本寺あり
本尊の御尊は大師自化の聖像
大師の遺の御尊の御尊也

りて御尊ありて御尊あり世ふ
りて御尊ありて御尊あり
号曰御尊佛立像言人より御心
他御尊御尊御尊御尊御尊の
中より御尊ありて御尊あり
負御尊御尊御尊とて又御尊の
御尊御尊御尊御尊御尊御尊
初今御尊御尊ありて御尊御尊
○大師の御尊八日御尊の御尊あり
御尊御尊御尊御尊御尊御尊の
御尊御尊御尊御尊御尊御尊

○小治山十輪寺 口を多し御尊の御尊の御尊

宇治の天台本尊御尊御尊御尊

地蔵を又観音とあはれ貞観
年遷座を皇后の建意又元弘
のはるに明礼の知子ある人、其
のうらふは福衣あいはらの観音と号す
又皇后を遷座新殿のおまじりゆ
也、結帝の地蔵と云ふ也

日守塔山の額より

○西山三光寺 戸数二百石
之あり又天台宗なるも観音の
立像を人弘仁法師の化則を
なり行法住公を是れ也、其を三
子海舟上人の夢創し上人ハ
源信和尙の弟子と云ふ、山は
せり、つらふも水を縁し、つらふ一人

充りの観音と云ふは山の前より
何知あはさ坂と云ふ所の之形ハ作は
山と云ふ所をさし、つらふは
法林と云ふ、つらふて去はの観
音方の後、つらふて山がの繪像を
なり、つらふて上人寺、夫の山ハ
より、天龍をさし、て佛圖と
云ふ、つらふ

日守食の由原各のよき
あり

○西山三光寺

空あり天台宗なるも律宗也、四宗
なるも学あり、山がの画圖を、其
觀像法師又山がの曼陀羅、其
日守あり、つらふ、織衣の布あり

西く日本を及の曼陀羅より
用基深き人報能は徳又
多法をあるもいかにたす
中興の言も人く。高山の絶頂
深きうけとて三峯ありて
之形三法も似たりと人の頂
より七城二大佛ア申と云ふ

日原方の白

○西岩倉山金剛寺

字名天台を名とす其の
立像千人樹をてて向日の
外の地たるを云其基隆豊
福原より平五城近郊の
王城の四方へ大乗經をぬて

法護とてその一ありて石虎
此山とありと云ふ

同大乗經と云ふの社の神あり

○少佐山胎持寺

字名天台本寺其作は坐像
三人の守りありて其基後行
老の耐自化の多動を本寺トス
大乗院と号中興弘法と云ふ
寺を云ふと云ふ

日下之世平林の内

○迎錫山福田寺

字名多初天台今津古本寺ハ
地龍寺の基化け池を佐野の
男修也法師の寺とて物部の

板井の法名の号を極せしむ

日中久世の西大を極せしむ
○ 拙者尾寺 信ふりしとて

字は名天名今曹洞流の信位守
たそそ善勝仏立像すん斗極す不
そ所のわくは善勝信位大所の信
の善善あつては代をいし信を
と約いたすよ何一々の拙者善勝仏
を信ひまう信の至て飛去所
雲代をうと知つて一字を建て
信の所と自彫して信位は
あんちをいあひしと昔は法を
最とまをりしを中江回縁より
あそそとるなり信



